

建築の表層に表れる湘南のイメージ

宇野研究室

4109008

池辺 俊佑

1. 研究背景・目的

1-1. 研究背景

一般に湘南と呼ばれる地域は行政区分と明確に対応しているわけではなく、起源も定かではない極めて曖昧な地域である。一般的には葉山から大磯までの神奈川県海岸線沿いをいう（図1）。湘南に含まれる街はそれぞれ独自の文化を持っていた。戦後、湘南は映画によって描かれるようになると住宅地として人気が高まり映画がつくるイメージが湘南全体のイメージとして人々に浸透していった（図2）。湘南と湘南のイメージはどういったものだろうか。

1-2. 研究目的

湘南のイメージと住宅の表層との関係を調査することで、湘南らしさを形成している建築的要素を明らかにするとともに、湘南の地域内の差異を明らかにすることを目的とする。

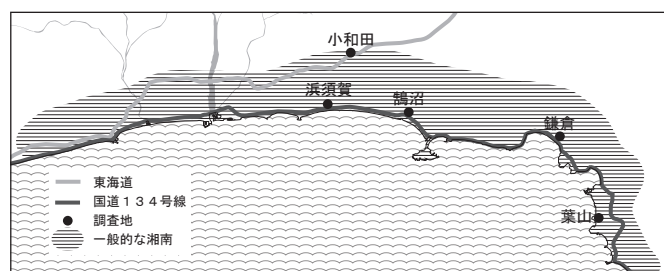
2. 研究対象

湘南地域の住宅のファサードを研究対象とする。一般的に湘南と呼ばれる地域にありながら、それぞれ特徴の異なる鵜沼、鎌倉、葉山、小和田、浜須賀の5地域（図1）を選び、各地域の約20軒の連続する住宅のファサードを現地調査した。各地域の連続立面写真を図3に示す。

3. 各地域の典型的な住宅のファサード

3-1. ファサードの構成要素表

調査した住宅の表層に表れる構成要素をまとめると表1のようになった。その各要素について地域ごとに集計して種類の構成割合を示すグラフを作成する（図4）。



▲図1 湘南地図

3-2. 典型的なファサードの表1 ファサードの構成要素描画

各地域の差異性を明らかにしアンケート調査に利用するために、図4を用いて各地域の典型的な住宅のファサードを描く（図5）。その描画ルールは以下の通りである。

（1）基本的には、各種類（例えば「屋根形状」）に対してその地域で最も数の多い種類（例えば「切妻屋根」）を描く。ただし各地域の差異を強調するために、（2）最多の種類が複数ある要素に関しては、全地域について足し合わせた数が最小の種類を描く^{註2)}。また（3）最多の種類でなくても、他の地域に比べてその数が極端に多い場合には、それを描く^{註3)}。結果として同じ種類が4地域以上で描かれた種類はなかった。

3-3. 考察

各地域の典型的な住宅のファサードはそれぞれ異なる特徴を持った。

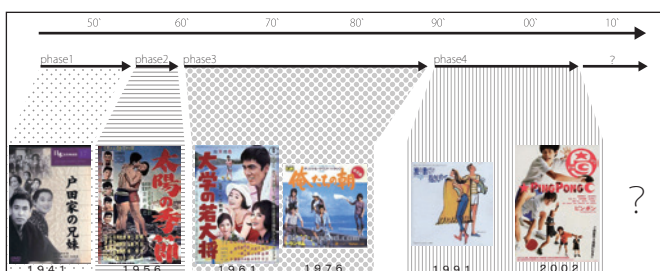
鵜沼：松や玉石積みの石垣、ウッドデッキなどの住宅の周りの要素が表れた。

葉山：外壁の色の種類が豊富であり、特に桃色に塗装されている住宅は多く、桃色の外壁がファサードが表れた。

鎌倉：押縁下見張の外壁が多く、古風な様相が表れた。

小和田：鼻隠し・破風の色が黒となった。また、ベラン

要素	種類
形状	東方向、軒方向、寄棟、陸、切り妻、その他
仕上げ材	瓦、スレート、瓦葺、波板、その他
色	黒、茶、グレー、青、赤、アルミ
鼻隠・破風	黒、白、茶、なし
種	黒、白、茶、なし
軒の長さ	60、50、40、30、20、10、なし (cm)
数	7以上、6、5、4、3、2、1
窓	黒、白、茶、銀、アルミ
庇	あり、なし
仕上げ	塗り、タイル、吹付、下見板張り、樹脂系サイディング
色	白、グレー、ベージュ、茶、黄、桃色、オレンジ、緑、その他
シャワー	あり、なし
ベランダ	ウッドデッキ、一坪型、銀、アルミ、その他
塀	玉石、タイル、生垣、レンガ、木柵、白い塀、銅色塀、その他
樹木	マサキ、カイズカイブキ、サツ、松、その他



▲図2 映画がつくる湘南のイメージ^{註1)}



ダや塀などに茶色に塗装されたアルミの柵が表れた。

浜須賀：ウッドデッキ、玉石積み石垣など鵜沼と共通する特徴が表れた。屋根の色や装飾にも特徴が表れた。

4. アンケート調査

4-1. アンケートの概要

対象と期間：大学生29人を対象に2012年10月7日から10月11日の期間で調査を行った。

目的：各地域のファサードに表れる共通する湘南のイメージと地域の差異性を明らかにすることを目的とする。

内容：はじめに個人の属性として年齢、性別、湘南に行った回数についてきいた。次に各地域の絵をみて18対の形容詞句対を5段階で評価してもらった。また、ファサードの絵のどの要素が形容詞句対の評価につながったかを自由に記入してもらった。

4-2. アンケート調査の結果および考察（図6）

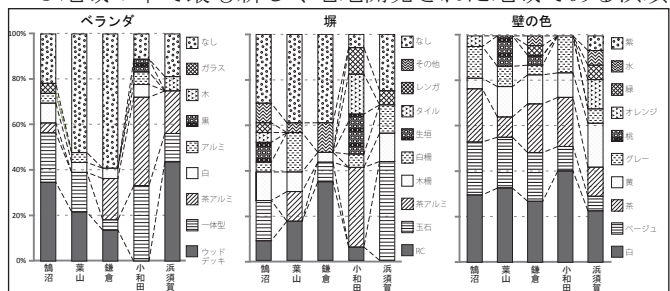
「上品な - 下品な」「安心な - 不安な」「サザンっぽい - サザンっぽくない」の形容詞句対への各地域の評価にまとまりが表れた。これらは実際の湘南が人々に与える各地域の共通の湘南のイメージを表していると考えられる。

一方で、「モダン - 古風な」「個性的な - 一般的な」「都会的な - 田舎風な」「明るい - 暗い」「昭和っぽい - 昭和っぽくない」の評価にばらつきがでた。この結果から、上記の形容詞句対は地域の差異性につながったと考えられる。

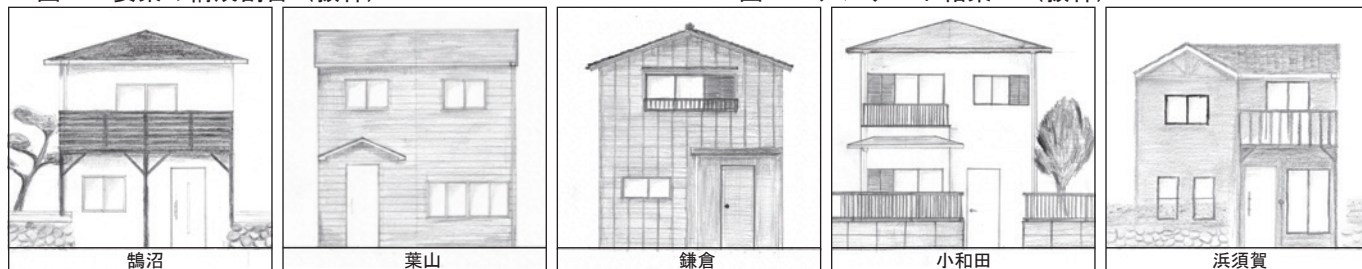
また、湘南に行ったことある人とない人で評価に差が出た。特に「湘南らしさ」については行ったことがある人の方が湘南らしさの評価が高い。これにより、湘南に行ったことのない人の湘南のイメージと実際の湘南には差があることが分かる。

自由記述によると、白い外壁が「上品な」、玉石積み石垣や松が「安心な」という評価につながっている。また、これらの要素は「海を感じる」という評価とも関係している。色合いが「冬っぽい」や「明るい」につながることが分かった。

5地域の中で最も新しく宅地開発された地域である浜須賀



▲図4 要素の構成割合（抜粋）



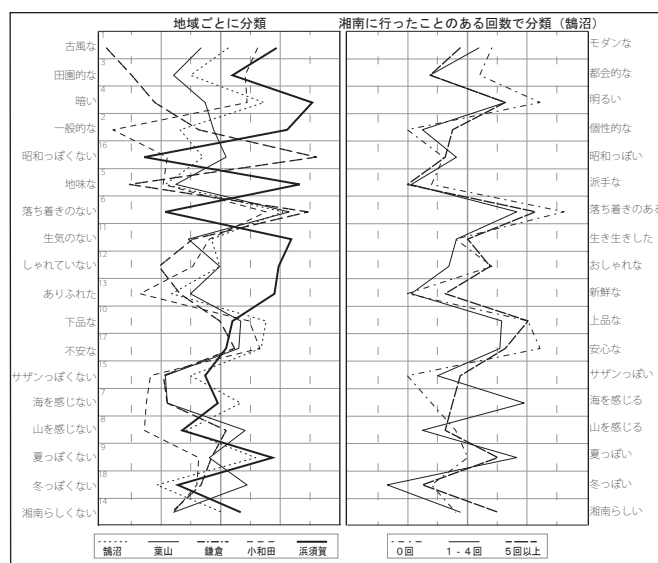
▲図5 各地域の典型的な住宅のファサード

賀が「派手な - 地味な」「落ち着いた - ある - ない」「新鮮な - ありふれた」などの形容詞句対で他の地域と反対の評価をされている。また、「湘南らしい」の評価が最も高かった。このことから、湘南のイメージは「派手で落ち着いた感じがなく新鮮な」というもので、実際そのイメージ通りの住宅が近年建てられていることが分かった。

5. 結論

- ・湘南の住宅街は「上品で、安心でサザンっぽくない」というイメージを与える。
- ・湘南の各地域には差異性がみられ鵜沼は「海を感じる」、鎌倉は「古風な」、葉山は「冬っぽい」、小和田は「都会的な」、浜須賀は「明るい」というイメージを与える。
- ・湘南に行ったことのない人々が抱えている湘南のイメージと実際の湘南には違いがあり、映画などのメディアが創った湘南のイメージと現実の湘南の乖離が明らかになった。
- ・フィールドワークにより統計を取り、それをもとに住宅のファサードを描き、各地域の差異性を明らかにした。また、絵を用いてアンケート調査を行い住宅の表層とそのイメージの関係を明らかにした。以上のような手法の有効性があると考えている。

本研究では湘南らしさを形成している要素と地域の差異性を生む要素を明らかにした。今後、これらの要素と各地域の文化や歴史との関係を明らかにして、湘南における、湘南らしさと地域性を併せ持った建築の設計手法、また湘南地域での街づくりへとつなげていくことを課題とする。



▲図6 アンケート結果^{註4)}（抜粋）

脚註：1) 加藤厚子著の「映像が創る湘南」で映像が湘南のイメージは以下の4つのphaseで創られたと述べられている。 phase1: 高級リゾート・避暑地のイメージと観光地としてのイメージが並存していた。 phase2: 湘南のイメージは若者と強く結び付けられた。 phase3: 湘南と若者が結び付けられたイメージが健全化・普遍化され、固定された。 phase4: 60～80年代を懐古する傾向が強まった。 2) 5地域13要素の65項目のうち、49項目あった。 3) 16項目あり、そのうち10項目は地域内で2番目に多い種類であった。また最多の種類との数の差は1つだけであった。 4) 実際のアンケート調査では図の左側の数字の順で答えてもらった。
参考文献：1) 今和次郎、「考現学入門」、筑摩書房、1987、2) ケヴィン・リンチ、「都市のイメージ」、岩波書店、1960、3) 西山知三、「すまいの考今学 現代日本住宅史」、彰国社、1989、4) 小風秀雄、大矢悠三子、島本千也、本宮一男、飯塚秀樹、加藤厚子、渡部亜希、「湘南の誕生」、藤沢市教育委員会、2005